

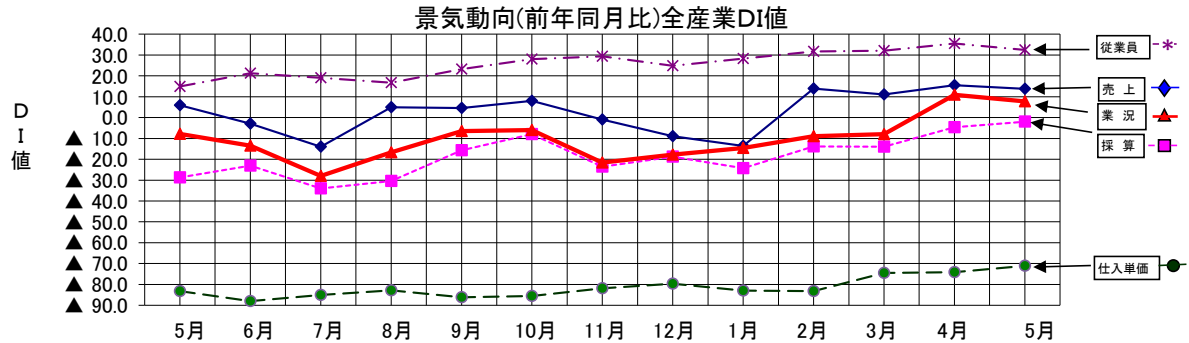
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 6月分

【6月の概要】

上昇を続けてきた「業況」DIが悪化 経済活動は活発になるも、採算面で苦しい状況が続く

業況判断を示すDI値は、「採算」と「仕入単価」で若干改善したものの、依然としてマイナス水準を脱していない。また、「売上」と「業況」は悪化し、「業況」については6か月ぶりに悪化を示した。先行き見通しでは「採算」で8.3ポイント、「売上」で6.6ポイントそれぞれ改善した。「採算」はプラス水準に入り、改善の見通しを示している。

コメントでは、新型コロナの5類への引下げにより経済活動が活発になってきているとする意見が多いものの、引き続き、原材料費等の高騰や価格転嫁問題、人手不足等に加え、ゼロゼロ融資の返済開始を心配する声もあった。引き続き苦しい状況が続くことが予想される。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)

	2022年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	2023年 6月
売上	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	13.9	11.0	15.5	13.7
採算	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9	▲ 14.0	▲ 4.6	▲ 2.0
業況	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9	▲ 8.0	10.9	7.8
仕入単価	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2	▲ 74.5	▲ 74.1	▲ 71.1
従業員	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7	32.0	35.5	32.4

・プラス幅が減少したDI値：売上▲1.8ポイント、業況▲3.1ポイント、従業員▲3.1ポイント

・マイナス幅が減少したDI値：採算2.6ポイント、仕入単価3.0ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
4月	1.0	▲ 6.0	▲ 8.0	▲ 42.0	28.0
5月	9.1	▲ 7.3	1.8	▲ 48.2	31.8
6月	15.7	1.0	▲ 4.9	▲ 46.1	32.4

・見通しが改善したDI値：売上6.6ポイント、採算8.3ポイント、仕入単価2.1ポイント

・見通しが悪化したDI値：業況▲6.7ポイント、従業員0.6ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	ゼネコン	働き方改革に伴う残業上限規制まで残り1年を切り、意識改革と現場生産性の向上が業界の重要テーマとなっている。
	管工事	人員不足、資材等原価高騰等課題は多い。新卒採用も思うように進まない。建設業離れを感じる。
製造業	製菓	コロナ5類引下げで経済活動が活発になっているが、物価高騰に伴う価格転嫁が追い付かず採算面で厳しい。
	板金・溶接	少し時間がかかっても良くなっていく兆候は出てきているようだ。
卸売業	食肉	昨年より好転しているが、まだコロナ前の水準には至っていない。輸出は米国を中心に好調を維持している。
	調理器具	売上は回復基調にはあるが、雇用調整助成金がなくなり採算面では厳しい状況。
小売業	印鑑・印刷	名刺の発注が増加している。営業活動が活発になってきている証拠ではないかと思う。
サービス業	運輸	コロナ5類引下げにより荷動きが活発になることを期待していたが、前年水準にすら到達していない。
	タクシー	収益は改善傾向にあるが、これから融資の返済が始まる。今後コロナ前と同様の催し開催に期待している。
	ソフトウェア	賃上げ等の固定経費増による採算性の悪化がみられる。